

「7科目・パーフェクト合格ゼミ後期」を受講していた、「平成26年司法試験合格者」からの推薦文です。

### ● 1回目の不合格と、「7科目・パーフェクト合格ゼミ後期」を受講するまで

私は、ロースクールの未修者コースを修了後、二度目の受験で司法試験に合格することができました。

一度目の受験では、短答式試験を2200番台で通過したものの、論文式試験はどの系統もボロボロで、3700番台、総合でも3600番台という悲惨な結果に終わってしまいました。

その後、「スクール東京」のパーフェクト合格ゼミを一括で受講し、今回、合格者が減った中でも、何とか合格することができました。

不合格になってしまった人がまず初めに行うのは、敗因分析だと思います。私の敗因は明らかでした。私は一度目の受験時、「一度出た問題は二度出題されることはないのだから、過去問はやらないか、やるにしても必要最小限度でいい」という考え方でした。事実、一年目の受験の際に私がとった過去問対策といえば、出題趣旨、採点実感、ヒアリング（以下、試験委員コメント集若しくはコメント集という）をザッと斜め読みし、直近2,3年分の問題について、問題文を読み、再現答案を眺めるという、とても過去問対策をしたとは言えない状況でした（その証拠に後述のパーフェクト合格ゼミで過去問を検討した際に、すべての過去問が初めてみるような感覚でした）。

上記のような考え方だった私が過去問対策の不足を敗因と結論付けた理由は、その年の試験の場で、刑事訴訟法の問題が平成21年の刑事訴訟法の問題と類似しており、その試験の場で「もっと過去問をちゃんと対策しておけばよかった」と思ったこと、同じロースクールの未修者コースの友人が過去問を中心とした試験対策で一発でしかも超上位で合格したこと及び不合格直後に受講した成川合格塾で、成川先生から試験委員コメント集の大切さを説明されたからです。

### ● 「7科目・パーフェクト合格ゼミ後期」を受講した感想

上記のように、私の1度目の不合格の敗因は過去問対策の不足にあり、その不足を補うために、過去問の問題文と試験委員コメント集を駆使して、問題文の読み方と書き方を徹底的に練習することが必要だと理解しました。しかし、それを独学でする技術は私にはありませんでした。よく過去問を自主ゼミで扱っている受験生がありますが、過去問については本当に重要なので、成績の優秀さ等で先入観が入り込んでしまう自主ゼミよりも司法試験に合格して司法試験をよく知っている講師若しくはロースクールの教授の先生に添削してもらおうことをおすすめします。

そこで、私は「論文をコメント的に解く」をコンセプトとしている「スクール東京」の7科目パーフェクト合格ゼミを受講しました。結果的にこの受講は大正解だったと思います。

パーフェクト合格ゼミは大抵の科目で、直近7年分の過去問についてミニテスト、問題文検討、答案構成、受講生の答案検討、という構成で行われます。

**特におススメなのはミニテストです。これはどんなに知識や書き方に自信がなくても毎回受けるべきです。小テストは科目ごとに構成が違いますが、これは見事に科目特性を把握していると思います。**具体的には、憲法では論文を書く際に必要となってくる定義や判例の規範の確認、民法や行政法等、法的三段論法が重要になってくる科目については、答案形式のミニテストが行われ、知識と法的三段論法ができているか確認してもらうことができます。そして、事実を挙げてそれを評価することが大事な刑事系では事実の評価に重点を置いたミニテストが行われます。

**このミニテストをしっかり受けて復習あるいはゼミの中で消化することで本試験に堪える学力が自然とついていきます。**なので、合格するためにも、ミニテストは毎回受けて下さい。

そして、問題文の読み方、答案構成は、試験委員コメント集の内容をよく反映して行われます。また、科目によっては、コメント集の中で、「この部分はみんなできないので合否には影響を与えない」ということも指摘してもらえます。**コメント集は内容が濃いので不要な部分は不要と言ってもらえるのは勉強の合理化という観点から役に立ちました。**

また、パーフェクト合格ゼミを受講される方に薦めたいのが、**パーフェクト合格ゼミ生は1通1000円から過去問の答案を別途添削してもうことができます(※)**。私は自分の答案が検討される回以外でも、予習で答案を書いていって、ゼミの中でブラッシュアップして、問題がなさそうならばそのまま提出、問題個所がたくさんあったら、復習で書きなおしてその書き直した答案を提出する、というプロセスをよく踏んでいました。**講師の添削が丁寧で、かつ、添削した答案を基に講師に直接質問し放題なので、これを繰り返すことで答案を書く能力がかなり伸びた**と思います。ちなみに、このプロセスの中では時間を計って書くことはしませんでした。むしろ、できる限りコメント集の内容を反映した、試験委員から評価される答案を書くことを意識しました。その代わり、ゼミから暫く経った後（大体2週間ぐらい）に、そのゼミで扱った過去問を2時間で書く訓練はしていました。

**ゼミは（ゼミに限りませんが）、受けるだけでは意味がありません。**しっかり予習して、講師の示すプロセスと少しでも違えばしっかり質問してください。「**スクール東京**」の**先生方は質問にはしっかりとこたえて下さいます。**その上で、上記のようなプロセスで答案を書く訓練を繰り返せばしんどいですが劇的に力が伸びると思います！

その結果、今回の受験では、短答の成績は多少下がりましたが、パーフェクト合格ゼミの中で培った勉強を活かして論文で挽回して1810名の中に入り込み、最終合格できました。

平成26年司法試験合格者 N・S 様

※ 条件がございます。パーフェクト合格ゼミのカリキュラム指定範囲の論文過去問で、期間内にご提出いただける答案のみとなります。詳細は、「スクール東京」事務局にお問い合わせください